

園芸タイムリー情報

《10月上・中旬版》

令和2年 10月1日発行 第10号
 上川農業改良普及センター
 Tel: 0166-84-2017 Fax: 0166-84-2009
 E-mail: asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage: http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通

- 天気は数日周期で変わり、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みです。
- ①ハウスは夜間の保温に努め、日中はこまめな換気を行いましょ。
 - ②栽培を終えたハウスは、作物残渣の搬出・冬期間の被覆資材除去を行い、翌年の病害虫の発生抑制を図りましょ。
 - ③適切な土づくりと施肥管理に向け、土壌診断を実施しましょ。
 - ④排水溝の設置や心土破碎等により土壌物理性の改善を図りましょ。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

土壌分析を実施しましょ

土作りの第一歩は土壌診断です。
 3年に1度は土壌診断を行い、施肥設計に活かしましょ。

【土壌の採取方法】

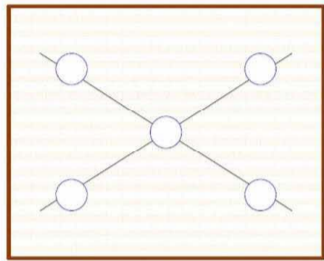


図1 土壌の採取位置

土壌の性質は、一筆のほ場の中でもかなりのばらつきがあります。

生育に差が見られない場合は、対角線に5か所以上を採取し、よく混ぜて一つの分析用の試料(500g程度)とします。(図1)
 生育に差が見られる場合は、それぞれを同様に採土してください。

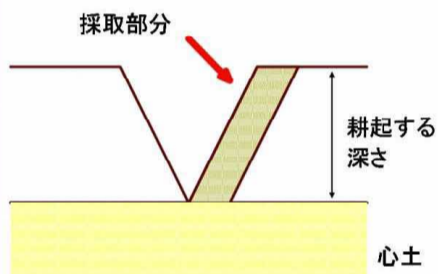


図2 土壌の採取深さ

このとき、表層部を薄く剥いた後、耕起する深さまでV字型に掘り、その面に沿って一定の厚さで採土します。(図2)

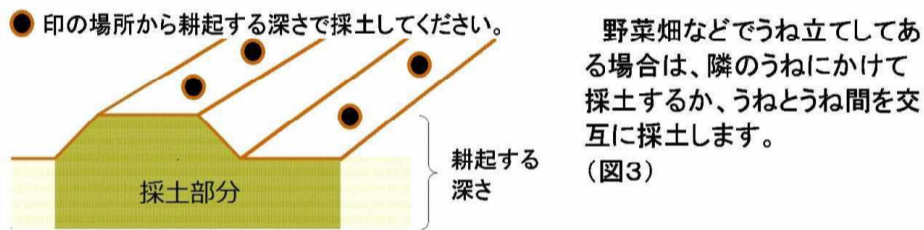


図3 うね立てしている場合の土壌の採取位置



野菜畑などでうね立てしてある場合は、隣のうねにかけて採土するか、うねとうね間を交互に採土します。(図3)

申し込み時期、分析料金などについては、農協等にお問い合わせください。

作物名	あぶらな科野菜全般
病害虫生理障害名	ウスカワマイマイ
ナメクジ類 カタツムリ類	
発生状況	中発生
発生時期	5月上旬～
発生時の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・9月上旬以降被害が増加しているため、今後も注意が必要。 ・ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所を好み、地中で越冬する。 ・葉の食害の他、フンや本体の混入が問題となっている。 ・雨天時や夜間は活発に活動する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・常発ほ場では通気を良くして湿気を逃がす。 ・スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。 	
＜防除の一例＞	
●スラゴ	1～5g/m ² (3.3～16.5g/坪) 発生時

作物名	花き全般
病害虫生理障害名	
灰色かび病	
発生状況	中発生
発生時期	7月中旬～
発生時の状況・要因	
<p>＜現在の発生状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枯れた部位や花弁の発生が多い。 ・結露及び保温によるハウスの湿度上昇により多発する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの換気、通気性の改善 ・結露を早めに乾かすよう努める。また循環扇を活用する。 ・かん水は必要最低限とする。 ・定期的防除の実施（結露が乾き次第実施する）。 ・展着剤を加用し、薬液散布量を通常の半分程度とする。 ・夕方散布は厳禁。 	
＜防除の一例＞	
●ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍 発病初期 5回以内
●セイビアフロアブル20	1,000倍 発病前～発病初期 4回以内
●フルピカフロアブル	2,000～3,000倍 発病初期 5回以内

作物名	パセリ
病害虫生理障害名	
うどんこ病	
発生状況	少発生
発生時期	8月上旬～
発生時の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・9月中旬以降発生は減少傾向にあるが、10月上旬までは注意が必要。 ・葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。 ・乾燥した条件下で発生しやすい。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場を乾燥させすぎない。 ・発生前から予防的に薬剤散布を実施する。 ・発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。 	
＜防除の一例＞	
(発生前)	
●クリーンカップ	1,000～2,000倍 収穫前日まで
●クムラス	500～1,000倍
(発生前～発生初期)	
●アフエットフロアブル	2,000倍 収穫3日前まで 2回以内

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	作物名	ピーマン
病虫害生理障害名	 <p>葉の病斑とかび</p> <p>がくから感染した腐敗果実</p>	病虫害生理障害名	 <p>茎葉での発生 発病部より上の茎葉は萎れて枯死する</p>
発生状況		菌核病	
少発生		発生状況	
発生時期		中発生	
8月下旬～		発生時期	
発生状況・要因		発生状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 気温が下がりハウスを閉めている時間が長くなると発生が増加する。 20℃位のやや低温と多湿で多発し、特に多湿条件や植物体が濡れている状態が続くことが発生に影響する。 枯れた花卉、がく枯れ部、植え傷みや葉先枯れで傷んだ葉等の枯死部分などから侵入し発生しやすい。 		<ul style="list-style-type: none"> 夜温の低下と共に再び発生が見られている。 20℃以下の多湿条件で発生しやすい。 茎に発生した場合は、発生部位から上の茎葉が萎凋枯死する。 果実では褐変腐敗し、幼果では腐敗落果する。 	
対策		対策	
<ul style="list-style-type: none"> 夜温が低く果実が冷えた状態で、ハウス内の温度が急激に上昇すると果実が結露し病害の発生を助長する。夕方早めにハウスを閉めて夜温を確保し、早朝から換気を行うことで結露を防止する。 夕方の薬剤散布は避け、晴天日の早朝に行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 		<ul style="list-style-type: none"> 多湿が多発の原因となるので、ハウスの換気に努める。 茎葉の濡れは、夜間よりも日の出後の気温上昇に伴う結露によるので、夕方早めにハウスを閉めて夜温を確保し、早朝に換気を行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロプラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ●ロプラールくん煙剤 100g/300～400㎡ (床150～200㎡×高さ2m) 収穫前日まで <p>※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内</p>	

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト
病虫害生理障害名	 <p>多発したすすかび病</p> <p>葉裏のカビ 上：葉かび病 下：すすかび病 (病徴では判別困難)</p>
発生状況	
中発生	
発生時期	
5月上旬～	
発生状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 発生の広がったほ場が見られる。 葉かび病やうどんこ病と混在して発生している場合が多い。 被害残渣で越冬し、次年度の感染源となるため、秋に多発したほ場では、次年度早い時期から発生しやすい。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 被害残渣は、ほ場内に残さずできるだけ搬出して処分する。 多発ほ場では、来年定植後の早い時期から予防的に防除を行う。 	

◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
 なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
 ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
 気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
 ※掲載されている農薬情報は、令和2年9月14日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認ください。
 ※不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません。

■□■□■□■□ GAP手法の活用【環境整備編】□■□■□■□

— 翌年に向け、秋の内に行えることを行いましょう —

- ・気象災害等の被害を受けやすいほ場、被害を受ける可能性がある場所を再度確認し、秋の内に対策を図っておきましょう。
- ・機械や資材を長期格納する場合は、清掃し、整備・補修してから格納しましょう。